

# 女性教職員活躍推進だより

第1号 令和4年5月30日 教育庁職員課

☆☆☆☆ 女性管理職ロールモデル紹介 ☆☆☆☆

福島県教育庁企画主幹兼教育総務課副課長

吉田 洋子さん

職員課主幹兼副課長

高橋敏幸が話を伺いました！

Q:これまでの経歴を教えてください。

大学を卒業後、会津高校で教員人生をスタートさせました。結婚後、3人の子どもの出産からそれぞれ育児休業を取得し、仕事と家庭を両立してきました。平成22年から教育総務課管理主事として3年間勤務後、白河高校教諭として学校現場に戻り、平成29年に教頭昇任試験を受験しました。教頭昇任後、3年間県立高校改革室管理主事として県教育庁に勤務し、令和2年度から2年間、修明高校で教頭を経験しました。

Q:教頭昇任試験を受けるきっかけは？



白河高校3学年担任時に、校長先生からすすめられました。女性管理職が少ないことに問題意識を持っていました。不安が大きく、断る理由も考えましたが、逆に受ける理由も考え、自分が頑張っている姿、チャレンジしている姿を生徒に見せることも大事だと考えました。

また、家庭での制約は大きくなりますが、母が頑張る姿を我が子に見せることも重要だと思い、昇任試験を受けることにしました。

Q:お子さんには、教頭昇任試験を受けることを伝えましたか？

伝えませんでした。気づいていたようでした・・・

Q:管理職としてのロールモデルとなる方はいらっしゃいましたか？

教育総務課管理主事として勤務していたとき、東日本大震災後の対応で忙しい中でも、管理職を経験した女性の職員が生き生きと勤務しており、しかも自然体で仕事と家庭を両立している姿を見て、こうできるといいなと思っていました。



Q:仕事と家庭との両立はどうですか？

平日は最低限のことしかできないため、土日は家庭を重視しています。年間を通してバランスをとり、メリハリをつけるようにしています。

## Q:教頭のやりがいとは？

教頭1年目は教頭としてわからないことが多く、とにかく不安でした。生徒たちに直接関わることが少ないですが、先生たちとの関わりの中で、生徒が育っていくのを見られることがやりがいです。生徒たちは、校長・教頭に見守られているとわかってきています。

また、教頭は先生方・職員室の担任と言われます。全員の先生方と教育について本音で語り合いながら学校を良くしていこうとできるのは、魅力の一つだと思います。

## Q:逆に大変だったことは？

「生徒たちのために」「学校をもっと良くしよう」と、先生方は常に考えてくれていますが、その考え方は様々です。そのような先生方をうまくまとめることが難しく大変でした。

## Q:最後に、女性教職員の皆さんにひとこと。

福島県教育委員会では、昨年12月に第7次福島県総合教育計画を策定し、本年度から「学びの変革」を柱とした6つの施策を展開しています。

「変革」するとは「考え方や価値観も変えていく」ことだと思います。「女性だからできない」という考えがあったとしたら、その考えを変えていかないと、「学びの変革」とそのための環境づくりとしての「学校の在り方の変革」にもつながっていかないと、女性一人取り残さない、一人一人が主役となる教育を実現するためには、女性の目線が必要です。

女性に限らず障壁は誰にでもあると思います。可能な状況であれば「やりたいけれど女性だから」というロジックを変えて、ぜひ管理職にもチャレンジしてほしいです。



吉田洋子さん、貴重なお話、  
大変ありがとうございました！

次回は、福島県教育庁義務教育課長  
石幡良子さんから話を聞く予定です。

今後も、福島県で働く女性教職員の活躍を伝えて  
いきたいと思っています。よろしくお願いします。

## ～女性教職員活躍推進だよりの発行に当たって～

福島県教育委員会は、女性が職場においてその力を発揮できるよう、「女性教職員活躍推進プラン」を策定し、教職員のニーズに即した女性活躍のための対策を計画的に推進します。また、男女共同参画の実現に向けて、人事の公平性・公正性を確保しつつ、女性教職員の管理職への登用に努めることで、令和7年度までに、女性管理職の割合を教頭・副校長で15%、校長で13%とすることを目標としています。